



## あとがき



今号からの新しい試みとして、原稿に付録をつけられるようになりました。最近論文に関連データや動画などを添付できる雑誌が増えていますが、これに似た試みです。「核データニュースへの投稿方法 (<http://www.aesj.or.jp/%7endd/ndnews/submit.html>)」にも付録に関する説明が追加されました。掲載可能なファイルの形式や容量など、ご興味のある方は編集委員会にお問い合わせください。また、今号には英語でなければ寄稿をお願いできない貴重な記事がありますが、実は、核データニュースに英語の記事が掲載されるようになったのは最近の傾向です。最近の5年間で5件ほど英語の記事が掲載されていますが、その前の5年間には英語の記事はありません。今後は英語の記事も増えていくと予想されます。前述の「核データニュースへの投稿方法」には、原稿テンプレートが掲載されていますが、現在は、日本語版のみとなっています。今号の編集では、英語版の原稿テンプレートについても議論になりました。ところで、日本語版の Word ではフォントサイズが 10.5pt がデフォルトになっていますが、これは日本の公文書に由来しているようで、英語版の Word では 11pt がデフォルトになっているそうです。このような観点から、日本語と英語を共存させる場合、フォントサイズをいくつにするのが良いのかなどの議論がありました。また、インデントの慣習も日本語と英語では異なるので、日本語の慣習にあわせるのか、それぞれの慣習にあわせるのかなど、英語と日本語の記事を混在させる場合には意外に判断に迷う点があることを認識しました。今号から付録という新しい試みが始まったり、最近英語の記事が増えたりしていますが、これまで長年続いてきた核データニュースの歴史の中でも、いろいろな方のご意見を参考にしながら、少しずつより良いものにするように変化し続けてきたのではないかと感じています。

横山 賢治 2021年2月

日本原子力学会核データ部会

核データニュース編集小委員会

岩本 修 (原子力機構)

宇根崎 博信 (委員長、京大)

大塚 直彦 (IAEA)

金 政浩 (九大)

小浦 寛之 (原子力機構)

中村 詔司 (原子力機構)

山野 直樹 (RADONet)

横山 賢治 (原子力機構)